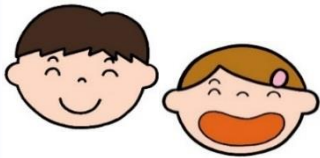


～子どもの学びと育ちを支え、質の高い幼児教育・保育を目指して～



つむぐ

No. 5

令和3年1月4日発行 袋井市幼児教育センター



自分で考え、試す子を育てる



どんぐりをペットボトルに入れてみたい



イチョウの葉に興味をもち、集める



砂の素材に触れ、感触を楽しむ

一乳児期から始まる思考一

子どもの興味や疑問が思考の入り口

子どもは、身の回りにある様々なものに対して、心を動かしています。

大人が、子どもの思いを大切に受け止め、認めたり、支えたりすることで、子どもの内面に自ら「やりたい」という主体性が育っていきます。

子どもに接する時は、子どもがやってみようとするを見守ることが大切です。

「あれ？」「なんでだろう」「もう一度」をつなげる

やってみて「おもしろい」と感じると、「もう一度やりたい」という気持ちを表します。そんな時は、子どものやる気を認めたり、一緒に遊んだりしましょう。

子どもは、いろいろなことを試し、やりたいことを繰り返す中で、物やその扱い方などを覚えていきます。

こうした体験からの学びが、友達と遊びをつくり出していく力につながります。